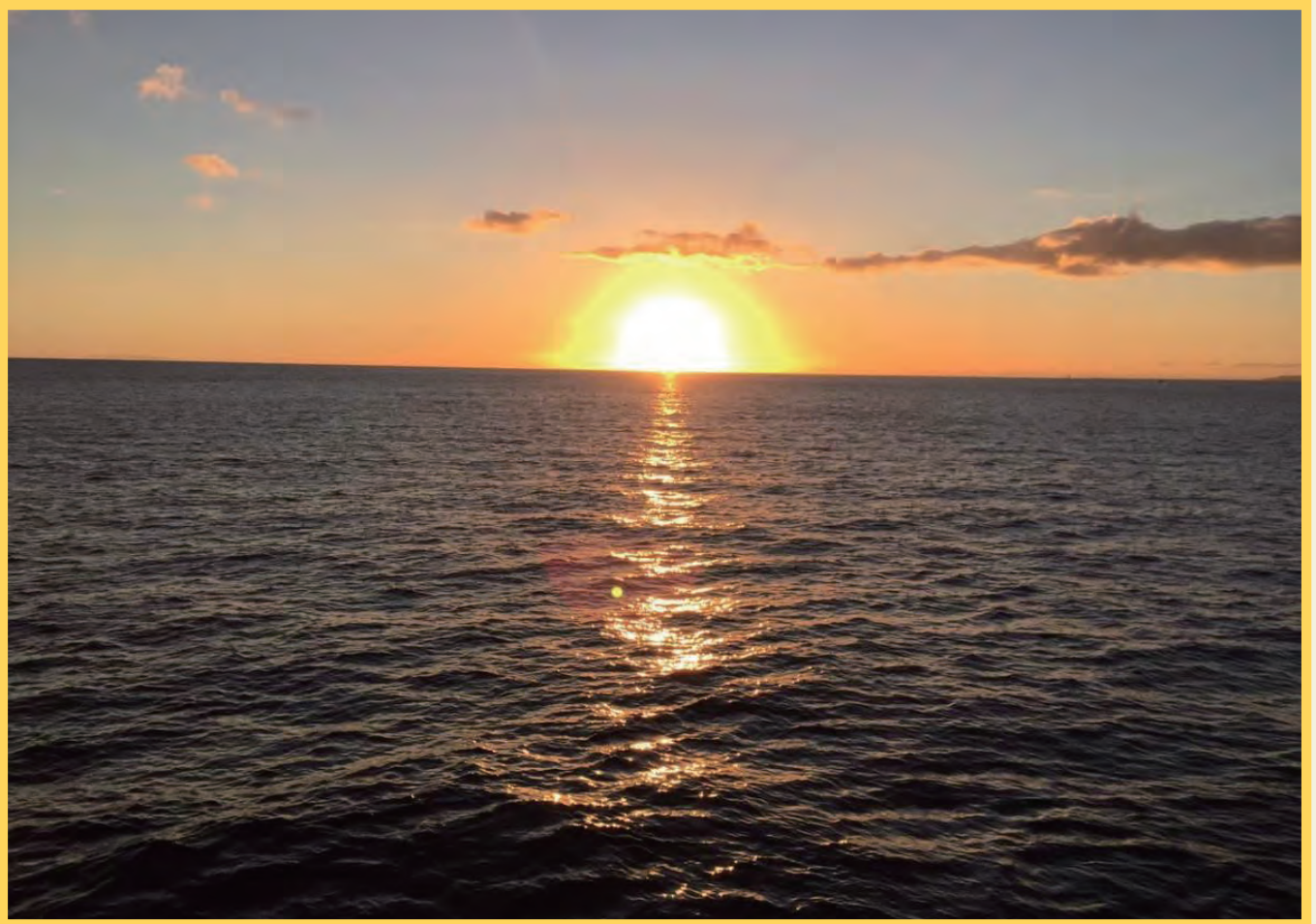


尊厳をもってその人らしく生きていく社会を目指して

デイケアニュース



- message：土井勝幸副会長
- report：リハビリテーション・ケア合同研究大会 山梨2024
- event preview：第50回全国デイ・ケア研究大会2025 in 川越
- voice：活動と参加してみた！ 🍀 認定デイ・ケアマスターの声
- new series：すぽっと・らいと～あなたの職場のプロフェッショナル～
- 会員施設紹介：介護老人保健施設 花の丘



【協会HP】
<https://day-care.jp/>



一般社団法人全国デイ・ケア協会
Japan Association for Day Care

活用してみよう！ 地域生活を支える 「生活機能向上連携加算」

全国デイ・ケア協会 副会長
介護老人保健施設せんだんの丘 施設長

土井 勝幸



「生活機能向上連携加算」についてご存じでしょうか、知ってはいるけれど、加算算定には協力したことないな...このような事業所が多いかもしれません。残念ながら、取り組みが進まないだけでなく、加算の理解も不十分かもしれませんので、ここで確認をしておきたいと思います。

リハビリテーション専門職が在籍していない通所介護や訪問介護事業所等において、外部のリハビリテーション専門職と連携し、利用者ができる限り自立した生活を送れるように支援する取り組みを評価する加算となります。例えば、訪問介護との連携では、自立支援・重度化防止に資する助言・指導を同行訪問やカンファレンス、生活機能アセスメント等を通じて行い、訪問介護計画に反映させ、生活機能の向上を目指します。但し、リハビリテーション専門職を派遣した事業所に加算はなく、連携に取り組んだ訪問介護事業者側の加算となり、派遣に伴う費用は事業者間の協議となることから、派遣側のメリットが薄いと感ずるかもしれません。

通所リハでは、医師の指示に基づき適切なリハビリテーションが提供されますが、利用の主たる目的とすべきは、どんなに重度の方であっても本人の望む生活行為の獲得に向けた、多職種による事業所内外での具体的な生活支援となります。医療から地域生活への適応を目指すアプローチが、多職種連携の視点で同時進行的にサービス提供できるのが通所リハビリテーションの強みですが、この視点を地域生活の場に繋ぐためには、地域の支援者（他事業所等）の協力は必須となります。

この地域に繋ぐために活用できる一つの仕組みが「生活機能向上連携加算」です。

通所リハでは、同じ場面を共有しながら多職種にて評価を行い、連携した支援を行っており、地域にて助言・指導する外部のリハビリテーション専門職としては、通所リハスタッフが適任であり、事業所内連携の視点を地域の事業所間連携に広げること、継続性を持った地域生活の支援が機能すると考えます。これが自事業所の通所リハ利用者であれば、リハビリテーション会議を活用することで、合意形成された目標に基づき、効率的・効果的な支援計画として共有することが可能となります。単に本人が望む生活行為を繰り返し練習することが目的ではなく、多職種・他事業所で支援するからこそ生活場面における再現性のある生活行為に繋がるのです。

当事業所では、この「生活機能向上連携加算」を地域の事業所に活用してもらうことで、「生活行為向上リハビリテーション」「認知症短期集中リハビリテーション（Ⅱ）」による支援も含め、生活場面における直接的指導・助言による他事業所間連携を実践しています。どれも算定が進まない加算の取り組みですが、有機的に機能させることで確実に地域での理解が広がるだけでなく、この加算のファンが増えてくれることを願っております。

知的好奇心は止まらない。止めてはいけない。

JADC研修会、新年度の予定を掲載。

当会では様々な研修会を企画しております。下記スケジュールをご確認の上、ご希望の研修会にお申し込みください。

JADC EVENT SCHEDULE

	開催日	研修会	開催地・開催方法
2月	8日(土)～9日(日)	経営戦略セミナー	東京
	15日(土)～16日(日)	生活行為向上リハビリテーション研修会	オンライン開催
3月	1日(土)～2日(日)	在宅リハEGコース⑤	東京
	23日(日)	第12回デイ・ケアスキルアップセミナー	オンライン開催
4月	19日(土)	第10回三団体合同研修会	長野
6月	27日(金)～28日(土)	第50回全国デイ・ケア研究大会2025in川越	川越プリンスホテル

※最新情報は当会ホームページをご参照ください

公式LINEアカウントを開設しました。

当会ではLINE公式アカウントを開設しました。本アカウントでは、研修会情報や様々なお知らせ等を不定期に発信してまいります。是非とも友だち登録をよろしくお願いいたします。



入金方法にクレジットカードが追加されました。

年会費や研修会受講費の入金にクレジットカード決済が可能となりました。これまで同様銀行振込も可能ですので、ご希望の方法でご入金をお願いいたします。

会員専用ページをリニューアルします！

会員の皆様へのより良い情報をお届けするために、会員専用ページのリニューアルを予定しています。具体的な公開時期は未定ですが、以下の情報を掲載する予定です。乞うご期待ください！

例) 各種加算に準じた取組事例、リハマネジメントの取組事例、LIFEに関する取組事例

リハビリテーション・ケア 合同研究大会 山梨 2024



2024年10月3日(木)～4日(金)に山梨県甲府市において『リハビリテーション・ケア合同研究大会 山梨2024』が開催された。本研究大会は完全現地開催として催され、非常に多くの方が参加され大盛況な大会となった。

さて、本大会は佐藤吉冲大会長(医療法人銀門会 甲州リハビリテーション病院 院長/甲州ケア・ホーム 施設長)による大会長講演から始まった。テーマである「地域リハビリテーション新時代」に即した講演や令和6年度トリプル改定を踏まえた講演等、非常に中身の濃いプログラムが開催され、参加者にとって学びの多い大会になったことだろう。

本大会において当会では、「改定後の医療介護連携!情報共有と連携プロセスの最適化」と題したパネルディスカッションを企画し、当会の野尻晋一理事が座長をつとめた。詳細は下記をご覧くださいと思うが、令和6年度トリプル改定においてさらに促進された医療・介護連携をテーマに、先駆的に取り組まれている事業所からの実践報告を交えながらディスカッションを展開した。当日は聴講者で会場がいっぱいになるほど盛況であり、連携のヒントを求めている方が多いと実感されたセッションとなった。

次の開催地は大阪。新たな学びの場になることを期待するばかりである。

主産団体企画

当会ではテーマを「改定後の医療介護連携!情報共有と連携プロセスの最適化」と銘打ち、パネルディスカッションを開催した。座長は当協会の野尻晋一理事が務め、シンポジストとして岡野英樹理事、澤淵昌樹理事、谷口貴子氏(西宮協立デイケアセンターほほえみ)、赤間優氏(札幌溪仁会リハビリテーション病院)が登場した。

令和6年度介護報酬改定では、医療、介護、障害福祉のトリプル改定に加え、厳しい人材確保や経済状況を考慮して、幅広い項目が見直された。このなかで、「医療と介護の連携推進」は改定の柱となる地域包括ケアシステムの深化・推進の最初の項目に位置付けられている。医療側には生活情報、介護側には医療情報の取得が強く求められ、情報共有の様式だけでなく、様々なプラットフォームが検討されている。今回の改定において、医療介護連携におけるリハビリテーション関連のポイントは、退院・退所後早期の情報共有とリハサービスの開始、リハマネジメントに基づいたリハ・口腔・栄養の一体的な提供であった。

上記を踏まえて医療介護連携における改定のポイントを岡野理事より説明されたのち、澤淵理事からは「退院時カンファレンスに呼ばれるための働きかけ等の体制づくり」について、赤間氏からは「退院前カンファレンスの実践」について、谷口氏からは「リハビリテーション・口腔・栄養の一体的取り組みの工夫と事例」について、それぞれの事業所の取り組みを踏まえて報告があった。先駆的に取り組まれている事業所の実践報告は、まだ取り組みを進められていない方にとっても刺激的な内容だったと感じる。

2040年問題を抱える我が国にとって、医療介護連携は今後もさらに重要さが増していくと考えられる。しかし、現状はまだ十分な体制が構築されているとは言い難く、今後の課題ともいえる。全国の事業所で連携に向けた取り組みを進めていくことが望まれる中で、今回の企画が参加者の一助になると嬉しく思う。



TOPICS

EXPERT GENERALIST COURSE

在宅リハビリテーション エキスパート・ジェネラリストコース

令和6年度在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコースも、残るところ第5クールのみとなりました。今年度から最初と最後のクールは集合形式の開催を企画しました。本コースが在宅リハビリテーションに従事する仲間が繋がっていく場になっており、オンラインでは感じ取れない熱気に満ちた研修になっています。

さて、早くも令和7年度の開催についてお知らせする時期となりました。次年度についても、オンラインと集合形式を組み合わせた開催方法を企画しています。募集人数が限られており狭き門ではありますが、多くの方のお申込みを心よりお待ちしております。詳細は下記および当協会ホームページをご参照ください。

※令和7年3月ごろ申込開始予定

主催 一般社団法人 全国デイ・ケア協会

協力団体 一般社団法人 日本訪問リハビリテーション協会
一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会

令和7年度在宅リハEGコース日程

- ①2025年8月2日(土)～3日(日)
- ②2025年10月10日(金)～12日(日)
- ③2025年12月5日(金)～7日(日)
- ④2026年1月16日(金)～18日(日)
- ⑤2026年3月7日(土)～8日(日)

研修会場 ①⑤集合開催(東京) ②③④オンライン開催

研修費用 一般 ¥120,000 認定デイ・ケアマスター ¥90,000

- 対象** 主催または協力団体会員で、以下の条件に当てはまる方
- 受講開始時点で経験5年以上(うち生活期の経験2年以上)の専門職
※施設長の推薦が必要
 - 医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師・介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・管理栄養士・歯科衛生士のいずれかであること
 - すべてのプログラムにご参加できる方
※会員が所属している法人職員も受講可能

定員 40名

当協会ホームページ <https://day-care.jp/kenshu-eg>



第50回 全国デイ・ケア研究大会 2025 in 川越

テーマ

JUST KEEP GOING! next 50th (前進あるのみ!)



会期 2025年6月27日(金)～28日(土)

会場 川越プリンスホテル

名誉大会長 齊藤 正身
(一般社団法人全国デイ・ケア協会 名誉会長、医療法人真正会 理事長)

大会長 岡野 英樹
(一般社団法人全国デイ・ケア協会 理事、医療法人真正会 本部付部長)

主催 一般社団法人 全国デイ・ケア協会

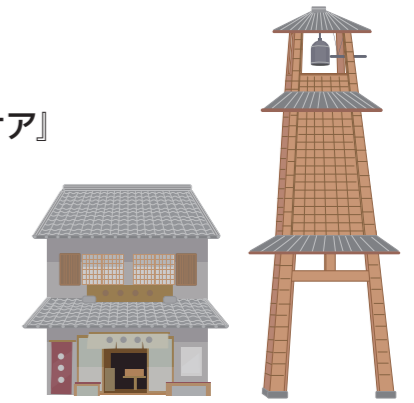
主管 医療法人 真正会 霞ヶ関南病院

大会HP <http://daycare2025.umin.ne.jp/index.html>



プログラム1日目

- ・開会式
- ・大会長講演
- ・特別記念対談：『これまでのデイ・ケア、これからのデイ・ケア』
- ・講演Ⅰ：『主体性を尊重したケアの実現
～在宅医療が見るデイ・ケアの可能性～』
- ・講演Ⅱ：『認知症の方を支えるデイ・ケアの役割』
- ・交流会
- ・口述24演題、ポスター30演題



※全て仮テーマ、状況によりプログラム変更の可能性があります。

プログラム2日目

- ・シンポジウムⅠ：『地域共生社会実現に向けた私たちの取り組み』
- ・シンポジウムⅡ：『震災対応から見るデイ・ケアの役割とは』
- ・研修認定委員会(協会企画)：
『認定デイ・ケアマスター・在宅リハEGコース修了者実践報告』
- ・口述18演題、ポスター30演題
- ・閉会式



※全て仮テーマ、状況によりプログラム変更の可能性があります。

演題募集中 2025年3月31日(月)まで

第50回記念大会を6月に開催 いざ川越へ!

この度、第50回という節目の年に、全国デイ・ケア研究大会を時の鐘が奏でる歴史と文化のまち川越で開催できますことを、大変光栄に思います。

テーマを『JUST KEEP GOING! next 50th (前進あるのみ!)』として、節目となる本大会を機に、これまで全国デイ・ケア協会が掲げてきたデイ・ケア4つの柱(医学的管理、心身・生活活動の維持・向上、社会活動の維持・向上、介護者等家族支援)をはじめこれまでの歩みを振り返りつつ、これから一層期待されるデイ・ケアを多角的に検証することで新しきを知り、地域共生社会の中でデイ・ケアが大きく前進するための方策を皆さんと共有したいと思います。

小江戸川越は、伝統文化と現代が共存するまちです。古い街並みの散策や地元の食文化に触れたり、さまざまな過ごし方をお楽しみいただけます。また、地域に暮らす人々の温かさが感じられるのも魅力の一つです。歴史情緒あふれる街並みを堪能しながら、一度訪れると忘れられない魅力にあふれる川越にお越しいただき、時の流れをゆっくりと楽しんではいかがでしょうか。皆さんをお待ちしております。



活動 × 参加

今回の活動と参加してみた!には「リハマネジメント研修会」「リハビリテーション・ケア合同研究大会山梨2024」にご参加された2名にご登場いただきました。様々な場で多くの発見や学びが感じられています。熱い想いをご覧ください。

活動と参加してみた!

@ リハマネジメント研修会

介護報酬改定に伴い新設されたリハビリテーションマネジメント加算(ハ)の取り組みにおける課題と情報共有を目的に本研修会に参加させていただきました。研修では「通所リハに求められる機能」の講義と2つの事業所からの実践報告を聴講し、グループワークでは、各事業所における課題の抽出や解決策など、実践的に取り組める内容に関して議論しました。リハ・栄養・口腔の一体的取り組みを行い、自立支援・重度化防止を効果的に進めることに関しての重要性は以前より理解していましたが、議論の中でご利用者や各関係者の理解をどのように深めていくか課題が話題となり、他事業所の複数の実践報告を聞くことができ、漠然としていた課題が解決に向け、前進することが出来ました。特に事業所内で職員の一体的取り組み

の重要性の理解を深めることが、第一歩であるとグループ内で意見が一致しました。学んだことを含めて職場内で伝達講習を行い、職員全体としてリハマネ(ハ)の算定に向けた共通認識を持つことが出来ました。一体的取り組みを行い、一人でも多くの利用者を自立支援・重度化防止に繋げることが出来るよう、今回の研修で得たことを活かしていきたいです。

介護老人保健施設寺田ガーデン
理学療法士 柴田 結美



活動と参加してみた!

@ リハビリテーション・ケア合同研究大会山梨2024

今回はリハビリテーション・ケア合同研究大会山梨2024に参加しました。様々な講演の中で「改定後の医療介護連携 情報共有と連携プロセスの最適化」のシンポジウムに参加しました。講演では令和6年度介護報酬改定において、地域包括ケアシステムの深化・推進の柱として医療介護連携やリハビリテーション・栄養・口腔の一体的取り組み推進する為の体制作りについて具体的なアプローチ方法の実践につなげる為の知識を再認識する機会となりました。私自身、退院前カンファレンスに参加する機会がありますので、参加するだけでなく退院後の生活を見据えての予後予測や退院後のリハ支援方法等を、本人家族とコミュニケーションを図り、合意形成することや不安や課題の気づきを投げかけることが改めて

重要と感じました。当事業所において、リハ・口腔・栄養の一体的取り組みでは多職種が栄養の課題に気づくことが出来る運用を実践する中でリハ・口腔・栄養の関わりが必要ではないかという気づきと他職種に分かりやすく伝え、タイムリーに支援が開始できるよう取り組んでいきたいと考えています。今回の講演を通じ、利用者様が自分らしく在宅生活を継続できるよう自己研鑽しながら貢献していきたいです。

西宮協立デイケアセンター第2
ほほえみ

作業療法士 佐々木 昌平



要注目

会員限定

ON DEMAND

会員向け無料教育セミナー定期配信中

全国デイ・ケア協会では、会員限定にオンデマンド配信による教育セミナーを開催しています。第19弾は「要支援におけるリハマネジメント～老健事業調査と令和6年度改定から考える～」,第20弾は「通所リハにおける修了に向けた取り組み」を開催しました。視聴者アンケートからは大変好評をいただいています。本セミナーが会員の皆様のお役に立てますと幸いです。



会員向け無料教育セミナー 配信スケジュール

令和7年

1~2月配信 送迎業務の実態と安全管理のポイント
3~4月配信 法的な立場からみた通所リハの業務



認定デイ・ケアマスターの声

Master's Voice

真栄城 一郎 (理学療法士)

介護老人保健施設清雅苑
通所リハビリテーションセンター清雅苑



私は2001年に理学療法士の免許を取得し、社会医療法人寿量会に入職しました。当法人は、母体病院である熊本機能病院(病床数395床)と介護老人保健施設清雅苑(入所定員80名、通所リハ定員140名)があります。入職当初は老健の入所リハと通所リハにて兼務しその後、訪問看護事業所の訪問リハ、母体病院の地域包括ケア病棟や回復期リハ病棟に勤務、2011年に再び通所リハに配属になりました。その頃には介護保険制度の変化もあり、入職時と比較し通所リハに求められる機能や役割に進化を感じる状況でした。特にリハマネジメントにおいて訪問指導の重要性が明示されました。通所リハ事業所内に限らず、課題とする活動や参加の場面へ柔軟に支援が可能となり、通所リハが地域リハの拠点として存在していると強く意識しました。しかし、知識不足のため自身がどう取り組めばよいのか悩みました。そこで様々な研修会に参加し理解を深め、当事業所の取り組みを学会や研修会で報告するよう活動しました。ちょうどその頃に全国デイ・ケア協会の研修認定委員会よ

りお誘いを受け、委員として働く機会を頂きました。研修会の企画運営に携わるなかで、認定デイ・ケアマスターの存在を知り、取得させて頂きました。職場では管理職として事業所の運営に関わり、また新規利用者の相談受付にも携わっております。相談の段階で、複数の課題を抱えているケースは少なくありません。これまで学んだ知識を活かし、通所リハ事業所の役割を説明、課題解決のための支援方法を提案しております。また通所リハだけでは解決が困難な課題について、必要に応じ通所介護や訪問系サービスと連携しお互いの強みを活かせるよう取り組んでおります。事業所内の多職種はもちろん、他事業所とチームで課題解決に向けて取り組むことに、働きがいを感じております。

私にとって認定デイ・ケアマスターの取得は、通所リハの基本的な知識を身につけ、力を発揮できるよう準備を整える重要な機会だったと感じております。これからも通所リハ事業所が地域リハの拠点として役割を果たし、ご利用者および関わる人々のお役に立てるよう努力を続けて参ります。



すぽっと・らいと

～あなたの職場のプロフェッショナル～

通所リハではリハビリスタッフ、看護師、介護職など様々なスタッフを中心にサービスを提供しております。本コーナーでは、通所リハで活躍している様々なスタッフを紹介していきます。

今回は東京湾岸リハビリテーションセンターを力強く支えてくれているスタッフにスポットライトをあてて、リハビリ助手の星永剛さんにお話を伺いました。



東京湾岸リハビリテーションセンター
リハビリ助手 星 永剛さん

委員 リハビリ助手として働くきっかけは何でしょうか？

星 私は理学療法士として急性期、回復期で40年ほど勤めておりました。定年退職をきっかけに役割を変えて働いてみたいという想いがありました。それから3年間は他の介護現場で機能訓練指導員として働いていましたが、地域新聞の求人広告で現在の職場を見て興味がわき応募しました。

委員 理学療法士として長年勤務されたのちにリハビリ助手として働いているのですね。リハビリ助手と理学療法士の違いをどのように感じていますか？

星 利用者さんに関わることとしては大きな違いを感じておりません。ただし、役割は異なると感じています。理学療法士や作業療法士の皆さんが計画したプログラムを実行するためのサポートがリハビリ助手の務めと思っています。運動のコツなどを理学療法士の経験から利用者さんに伝えられたらと思っています。



委員 働いてみて「良かった」と感じることはありますか？

星 まずは定年退職後にリハビリの現場で働けることに大変感謝しています。また、利用者さんからも感謝の気持ちを述べてもらえたりすると嬉しい気持ちになりますね。今はリハビリ助手ですので理学療法士とは役割が異なりますが、経験を活かして仕事が出来るとすごく感じていますので、個人的には非常に助かっています。

委員 普段心掛けている事はありますか？

星 利用者さんが楽しく自主トレーニングや事業所での活動を行えるように心がけています。それと、他の職員がスムーズに動けるように自分の立ち位置などは気を付けるようにしています。

委員 これまで様々な経験をされてきた中で、通所リハの良さはどのように感じますか？

星 自宅で生活されている方でリハビリテーションを継続したいという想いがある中で、それを提供できる場の通所リハは意義があると思っています。逆に、そのような希望を持つ方を受け入れる場は常に確保しておくことが大切だと感じています。

委員 最後に今後の抱負を聞かせて下さい。

星 皆様のお役に立てているうちは、体が許す限り生涯現役を目指し働きたいと思っています。

会員施設自己紹介

介護老人保健施設 花の丘

〒731-5143 広島県広島市佐伯区三宅6-265

介護老人保健施設 花の丘の紹介

西館3・4階 介護老人保健施設 花の丘 西館4階 通所リハ(6-7時間)



西館2階 西広島リハビリテーション病院 回復期リハ病棟	本館2階 西広島リハビリテーション病院 回復期リハ病棟
西館1階 フィットネス・外来リハ 短時間通所リハ(1-2時間)	本館1階 西広島リハビリテーション病院 回復期病棟 外来 医事課 居宅 訪問リハビリ

- ・介護老人保健施設は2フロアで96床
- ・併設の西広島リハビリテーション病院は3病棟すべて回復期病棟で139床
- ・広島市の人口は令和6年6月現在で約118万人。
- ・うち当法人の訪問リハ提供エリアの人口は約40万人
- ・広島市の高齢化率は26.3% (全国は令和5年10月現在で29.1%)

沿革・施設紹介

花の丘通所リハビリテーション(以下通所リハ)は、1992年に介護老人保健施設花の丘を開業して以降、定員50名の一日型としてサービスを提供しています。令和7年1月現在では、送迎、入浴、食事、個別リハビリがある6-7時間型を中心として、必要に応じて2-3時間型も提供しています。平均介護度は2.8で、この数年で0.5近く上昇しており対象者の重症化が進んでいます。

私たちの法人は「信じあい、明日を拓く」を理念に掲げ、確かな信頼関係の構築と未来への挑戦へ取り組んでいます。この理念に基づき、利用者には有益となるよう日々多職種で支援しています。必要時は併設リハ病院でのVF・VEや装具診察、ボトックス注射、TMS治療(磁気刺激治療)への紹介を行うなど、法人内連携についても強みとしています。

通所リハでの運動の取り組み

花の丘通所リハでは、

- ① PT、OT、STによる個別リハビリテーション
- ② 通所内でのADL活動支援
- ③ 介護職によるグループリハビリ

にて能動的な運動を提供しています。

②では、排泄(移動含む)、入浴、更衣、食事などのADL場面において、可能な限りご自身での活動を支援しています。また、それらの支援の前提として適時リハビリ計画書の修正や加筆を行い、チーム内での目標の共有を行っています。また、③では平行棒を用いた立ち上がり・座りを繰り返し行うなど、身体能力の向上に向けた取り組みをしています。

失語症への取り組み



火曜日と水曜日の午後に「言語デイ」と称して、失語症や構音障害の言語障害がある方を対象としたグループリハを実施しています。言語聴覚士が中心となつての病態そのものへのトレーニング目的のほかに、同じような障害がある利用者同士のピアカウンセリングの意味合いも含まれます。

個別リハビリでの取り組み

療法士は回復期リハ病棟とのジョブローテーションで数年おきの異動を行っています。時に回復期で担当していた療法士による個別リハビリの提供を行うなど、法人内の部署をまたいだ介入や情報共有を行っています。また、体外衝撃波(ショックウェーブ)による関節可動域改善や疼痛対策も行っています。



利用者の能動的な活動につなげる取り組み

ご自身で取り組みたい気持ちを支援するように、環境の調整や介入・支援を適時行っています。また、情報共有の為に本人をはじめ、家族、ケアマネジャー、他事業所と積極的に連絡を取り合っています。そのほか、目標や取り組んだ結果を見える化するために動画を活用しています。動画は主にリハ会議や担当者会議、送迎時の家族との情報交換の際に使用し、以前との変化や目標の確認を行います。それらの動画は法人内のネットワーク上に適時保管していき、他部署からでも閲覧可能としています。

本コーナーにて「ぜひ私の施設を紹介したい!」という会員様は、事務局までご連絡ください。

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

当会の前身である、全国老人デイ・ケア連絡協議会は1994（平成6）年、老健のデイケアや病院・診療所のデイケア等、全国様々あるデイケアを提供する施設の有志が集まり、情報の共有化・職員の研修・研鑽の機会提供等を目的として開設し、これまで活動を続けてまいりました。

現在当会は介護報酬改定における通所リハビリテーションの窓口を担い、報酬改定時においてはリハビリテーションマネジメントと通所リハビリテーションの意義を問い、加算として位置づけ、質に関わる根幹を表現してまいりました。

また、重度者に対してもより手厚いケアが提供できるサービスとして、地域でのリハビリテーション資源として重要であることを明確にまいりました。生活行為向上リハビリテーションの普及については特に、厚生労働省および各種団体との連携役とし、研修や企画に参画し現在に至ります。

これも一重に、会員施設の皆様から頂いた多くのご意見や、ご協力の賜物でございます。

ついては、今後一層地域でのデイ・ケアの役割を全うするために、協会としてより多くの「声」を賜りたく、皆様のお力をお貸しください。

より一層、通所リハビリテーションが地域に必要とされ地域生活の中核を担うサービスとなるために、今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

会員特典

Join Us

● 当会主催研修会、研究大会を会員価格にて参加可能

- ・全国デイ・ケア研究大会、リハビリテーション・ケア合同研究大会 ・主催研修会
- ※オンライン開催の研修会も多数企画していきます

● 「デイケアニュース」の定期発送

- ・年2～3回発行しております。
- 各種研修会情報、協会の活動報告、トピックス、会員施設紹介などご提供しています。

● 制度関連や現場で困っていること等の問い合わせが可能

- ・原則、会員様のみご対応させていただいています。

● 会員ページの閲覧が可能

- ・各種資料のダウンロード、研究大会抄録集、当会実施アンケート結果などの閲覧が可能です。
- 今後さらなるリニューアルを検討しています。

● 会員への定期的なメール配信

- ・研修会案内
- ・制度関連情報 等

※正会員（事業所）の職員は全員上記特典の対象となります。

一般社団法人 全国デイ・ケア協会 事務局

住所：〒101-0047 東京都千代田区内神田2-4-2 一広グローバルビル5階
TEL：03 (5207) 2710 FAX：03 (5207) 2711
E-mail：info@day-care.jp URL：www.day-care.jp

編集後記

早いもので、今年度最後のデイケアニュース発行となりました。今年度は6月に診療報酬・介護報酬・障害福祉サービスのトリプル改定があり、皆様におかれましては試行錯誤の1年だったかと思います。そのような中、2度の研究大会や各種研修会を開催でき、皆様と意見交流を行うことができました。ご参加頂いた皆様にはこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。デイケアニュースでは引き続き研究大会や研修会のご報告・各事業所での取り組み紹介等を行い、会員の皆様のお役に立つ情報発信を行える様、委員一同邁進してまいります。今後とも宜しくお願い致します。

横濱 集(全国デイ・ケア協会 広報委員会)
在宅リハケアセンター つきさつ通所リハビリ